

こうけん! ツツッ

抜歯 どうしても必要?

Q 「歯を抜いて、入れ歯に」と言われました。抜かなければいけませんか?

A 抜歯は主に、①虫歯②歯周病③歯根のう胞—などの治療で施術します。虫歯が進み、大きく歯が崩れている場合は抜

される病気で、歯そのものはしっかりとした形で残っているのに、進行程度にもよりますが、破壊されてしまった顎の骨を再生すれば、歯を残すことが可能です。顎骨再生は、古くは自家骨移植法が用いられていました。近年は人工骨が使われるようになり、患者さんの負担も軽減されました。

り得る細胞)から顎骨の再生も可能になるでしょう。歯根のう胞とは、過去に治療した古い金属冠の中が腐り、その歯が歯根の先端から顎骨の中に入り込み、顎の骨の中にウミの袋を形成する病気で、歯ぐきが腫れたり、歯ぐきに小さなおでき(顎の中のウミが歯ぐきに出てきたもの)のようなものがあるのに気づ

一方、やむなく抜歯しなければならぬ場合ですが、QOL(生活の質)の向上が求められる現在、治療のゴールは大きく変わってきています。単に入れ歯を入れるのではなく、より高いレベルでの口腔機能に加え、審美と快適感が求められています。

外科治療で残すことも

歯しかありません。しかし、②③の場合、生体材料と外科治療を併用して、歯を残すことができるようになりました。

歯周病は、歯を支えている骨が歯周病菌により破壊

平田口腔顎顔面外科・腫瘍内科がんヴィレッジ札幌

平田 章二氏

東京医科歯科大顎顔面外科、ドイツケルン大医学部留学、札幌医大口腔外科などを経て2003年に開院。

また最近では、簡便な顎骨再生の手段として、コラーゲン膜や特殊な成長因子タンパクが使われ、歯を抜かない外科治療が行えるようになってきました。将来は、幹細胞(すべての組織に成

部分を開いて病巣だけを摘出し、歯は残します。歯周病菌や体内にたまってウミは、血液を介して全身にも悪い影響を与えます。最近の研究では、糖

向上しました。口腔の健康は全身の健康につながります。自分にあつたよい治療を選び、快適で健やかな人生を送っていただきたいです。